



# SSH通信

Sapporo Kaisei Secondary School



2019年度(令和元年)

第18号

2019年12月18日 発行

発行責任者:SSH委員会

## 第9回科学の甲子園北海道大会決勝大会優勝！全国大会出場決定

12月7日(土)に行われた科学の甲子園北海道大会で5年次「ちごのいちご」チームが優勝しました。優勝チームはこの後、令和2年3月20日～23日の日程で科学の甲子園全国大会(会場:埼玉県)に出場します。

先日、北海道教育委員会の主催で科学の甲子園北海道大会が主催されました。この大会では全道から合計12チームが参加しました。本校は札幌予選から2チームが勝ち上がり、全道大会に臨みました。

大会は1チーム、6名で構成されます。その6名を、3人ずつ2つのグループに分けます。一方が筆記試験と実技競技を担当し、もう一方が総合競技を担当して各チームで競います。最終的には3つの分野の総得点が高いチームが優勝となり、見事、本校の「ちごのいちご」チーム(5年生:高校2年生)が優勝となりました。本校のもう一つのチーム「タケダトユカイナナカマタチ」(4年生:高校1年生)も4位となり、高校2年生のチームが多いなかで大健闘をしました。

5年生チーム ちごのいちご  
小松・小泉・石田・石井・橋本・南川  
科学の甲子園北海道大会 優勝

4年生チーム タケダトユカイナナカマタチ  
竹田・和田・田中・倉上・二瓶・黒田  
科学の甲子園北海道大会 4位

優勝おめでとうございます。事前の準備だけではなく、当日の集中力とチームワークの良さが勝因だと聞いて、とても頼もしく思いました。全国大会も、それぞれの良さを発揮しながら挑戦してください。健闘を期待しています。

学校長 廣川 雅之

### ●5年次チーム「ちごのいちご」《優勝チームからひと言》

小松賢太

これまでも科学の甲子園に参加していたのですが、結果を残せたことがなく今回は勝つために科学が好きそうなメンバーを集めてこの科学の甲子園に参加しました。そして全道大会が決まった時から、部活を辞めて一か月間それに向けた勉強に専念してきました。その甲斐あってか今回、こうした結果が得られてとても嬉しいです。加えてこの優勝は様々な人たちの協力があって成り立ったものであるため、関わっていただいたすべての方に感謝したいです。全国に行っても勝ちます。

橋本朔

自分は今回の全道大会で実技競技を担当しました。精度とアイデアが必要となる競技では、準備段階でメンバーであるなしに関わらず、多くの友達や先生方に協力をもらいました。彼らに良い知らせを持ち帰れたことをとても嬉しく思います。

3月の大会では、筆記・実技双方で全国の猛者を相手にするというところで、それまでに「受験勉強」という枠に縛られず科学する力を養えたらと考えています。

石井統

今回、夢にも思わなかった優勝を達成することができ、大変光栄に感じています。この優勝は、常日頃の多くの教職員の皆様のご教示や生徒の皆さんの協力があってこそであり、心から感謝しています。チーム内での結束が放課後の活動で深まったことで本番においても協力し取り組めました。ここまで進んだからには、今後チームの問題点を振り返り、よりブラッシュアップして、全国大会に挑んでいい結果を残したいと思います。

小泉陽太郎

全道大会では筆記と実験競技を担当しました。当日は主に対策していた数学とは異なる問題が出題されたものの、お互いの知識を結集させて冷静に問題に取り組むことができました。単なる個人戦ではなく、チームで試行錯誤しながら課題に取り組んでいくということは、普段の学校生活そのもので、スムーズに力を発揮することができました。全国大会でも全員で力を合わせ、科学の甲子園楽しんでいきたいと思います。

南川虎之介

筆記・実験試験は本領を発揮できたとは言えませんが、ほぼ毎日、カフェラウンジ等で実技の練習をしたおかげで実技1位をとることが出来ました。アドバイス・応援をくださった生徒や先生方に深く感謝申し上げます。ここまできたら全国大会でも良い成績を残したいので、これからの3か月の間、筆記・実験・実技、全ての試験に磨きをかけたいです。また全国大会を純粋に楽しみたいです。

石田悠吾

科学の甲子園北海道大会で優勝できたのは、チームメンバーはもちろん、多くの友達の応援と協力のおかげです。放課後一緒に残ってくれたり、アイデアをくれた人も沢山いて、本当に嬉しかったです。全国大会...日本の、科学を武器とする高校生の最高峰が揃いに集まる場所。僕らのチームワーク、非凡な発想力、理系を超えた思考力を結集して頑張ります！「曇りなき青海の原をとぶ鳥のかげさへしるくてれる春かな」

●4年次チーム「タケダマナトユカイナナカマタチ」 《4年生チームを代表して》

和田昂志郎

科学に対して、仲間と共に取り組むというのは滅多にあることではないと思う。学校での勉強は1人、レポートも1人、もちろんテストも1人。しかし、今大会ではそんなことは全くなく、話し合ってこそ世界だった。1人では持ち合わせない知識や技術をチームで共有することで新たな知恵を出し、問題を解き、よりよいものを作り上げる。自分にとって最高の時間だった。ありがとうチームの皆、そして四葉と八打。生物頑張ります。